

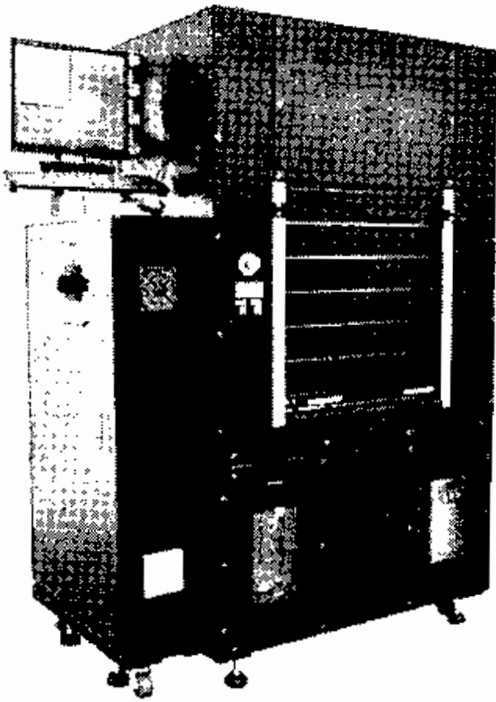
対象物回転機能を内蔵

レーザーマーキング装置

複数面に1度で刻印

東信電気、自社ブランド展開

【横浜】東信電気（川崎市麻生区、遠藤俊洋社長、044・980・3333）は、樹脂や金属板に文字や型番、ロゴマークなどを刻印することができるレーザーマーキング装置を開発、発売した。装置内で刻印対象物を回転させる仕組みを内蔵し、1度の操作で複数の面に刻印できるのが特徴。価格は2000万円（消費税抜き）。年間10台の販売を目指す。



東信電気は大手電気受託生産やOEM（相機器メーカーを中心に「手先ブランド」）供給、

ハード・ソフトの設計などが主力事業。これまで内製していたレーザーマーキング装置を今回、社外向けに発売。受託ビジネスに加えて、自社ブランドの展開を目指す。同レ

自社ブランドのレーザーマーキング装置

ザーマーキング装置は6面の製品であれば1度に4面へのマーキングが可能。刻印時間は50秒程度。装置内のカメラが刻印物の形を認識し、ズレのない刻印ができる。

印刷やシールラベルなどの場合の不良率は一般に2%程度だが、同装置では0.05%程

度に低減できるといふ。印字エリアは330mm×330mm。装置の大きさは横1200mm×奥行900mm×高さ1950mm。大手や中堅の完成品を手がける電機・自動車メーカーへ向けに訴求する。出荷先が数十

カ国に及ぶ企業の場合、各地域ごとに言語が異なるため、ミスや在庫がかさむ。同装置を導入することで、工程ごとに印字していたものを最終工程で一元化し生産効率の向上に寄与する。国内外の自動化ニーズを狙う。